

# ほーほーどり

NO - 50  
1983年  
1 - 2月号

我孫子野鳥を守る会

皆様あけまして

おめでとうございます

野鳥の保護と

手賀沼の環境保全について

野鳥を守る会が結成10年にして、昨年は大変明るいニュースが生まれました。それは、各新聞に報道された手賀沼船戸台斜面林の買収です。プラチナ万年筆所有の山林0.75ヘクタールを国、県、市が3億2,000万円を出し合って買収することに決定、このかげには、手賀沼の自然を愛する会、我孫子野鳥を守る会が協力して、緑地保存の運動を推進し、陳情、請願書を提出し、この運びとなりました。さらに、我孫子市は、これに隣接する山林2ヘクタールを所有者から借受け、緑地保全地域として、保存されることになったのです。

この様な樹林が保護され、野鳥の生息場所となり、自然に親しむ人々の憩いの場所が出来たことはうれしいことです。

県立手賀自然公園区域は、沼を除き水田、畑、山林全地域が私有地であり、開発防止の規制が難しい状況にあります。国や、地方自治体がこの問題にどの様に対処するのか。私有権と環境保全をどのように両立させるかが問題で、この要点が解決されない限り、真の環境保全はあり得ません。

最近、豪雨のたびに、手賀沼周辺、及び、他の地域における、家屋浸水の被害をまのあたりに見、自然破壊のおそろしさを感じます。損失は開発が進めば、進む程益々拡大される

状況にあり、憂慮に堪へません。

さらに、市の北部にある古利根沼はどうでしょう。自然の面影をとどめるこの沼が、近年環境が悪化し、昨年の夏は、大量のカラス貝が死滅し、大変な被害をうけました。その周辺から流出する廃油が水面に漂い黒い沼と化しています。

手賀沼にしても、古利根沼にしても心配はたえません。

市当局をはじめ、地域住民ひとり一人が自然を愛する気持をもってそれを守り続けなければ我孫子の自然は失われていく一方です。

新しい年を迎え、皆様のご健在と、ご多幸をお祈り申し上げるとともに、自然を守るという私達に課せられた責務をひしひしと感じつつ、今年も明るいニュースの訪れを期待してやみません。

渡辺義雄

## 感謝状

我孫子野鳥を守る会様

あなたは社会教育の重要性を認識し多年その振興に尽力されその功績は誠に多大でありますよってここに深く感謝の意を表します

昭和五十七年十一月十一日  
千葉県東葛飾地区社会教育連絡協議会  
会長 小熊勝夫

## 行事案内

### ◇ 手賀沼探鳥会とカウント

月 日 1月9日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
担 当 渡辺、畑、飯泉

じっくりと鳥をみるためには、防寒具は十分に。コマアイサは白衣になりました。越冬中のシギにも逢いたいものです。

正午頃終了です。

### ◇ ガン・カモ・ハクチョウ類 全国一斉調査

月 日 1月15日(祭)  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
担 当 飯泉、坂巻、畑

日本野鳥の会が行う、ガン・カモ・ハクチョウ類全国一斉調査に、毎年協力してきました、今年も調査協力を行います。

例年のとおり多数の方々のご協力をお願いします。

### ◇ 菅生沼探鳥会

月 日 1月30日(日) 雨天中止  
集 合 天王台駅南口 午前9時  
交通等 自家用車便乗ですから、便乗の方は会費として1,500円(但し、中学生以下は1,000円)負担願います。

自動車準備のため予約を下記に申し込んで下さい。

申込先 渡辺義雄 電話 0471-82-0521  
(なるべく夜間にして下さい。)

持 物 昼食  
担 当 渡辺、坂巻、畑

菅生沼は茨城県の南西方にあって、林に囲まれた静かな沼です。ガンが来ることもあり、ハクチョウは毎年来ています。カワアイサがいて、タカ類もよくでます。可愛いベニマシコとの出会いも期待できます。

例年のとおり、帰路は流山により、シラコバト・ケリ・タゲリを見ます。

### ◇ 銚子探鳥会

月 日 2月6日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子発 8時14分、成田行電車の後部に乗車のこと。

(成田着8時56分、同発8時58分の銚子行を利用)

交通費 我孫子～銚子 1,260円(片道)  
他に銚子市内でバス代が若干必要です。

解 散 銚子発 16時6分、我孫子着 18時23分の予定

持 物 昼食、防寒具は十分に。

担 当 中尾、飯泉

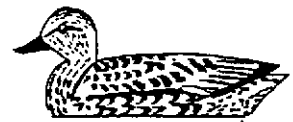
毎冬行っている探鳥会です。カモメ8種がみられたら、ヤッターです。メリケンキアシシギ・チシマシギ・シノリガモ等もみられるでしょう。灯台まで足をのばせば、アビ・ウミスズメも期待できます。

### ◇ 手賀沼探鳥会とカウント

月 日 2月13日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
担 当 畑、飯泉、中尾

水鳥の一番多いときです。鳥の行動を観察するのもたのしみです。

正午頃終了です。



◇ 山中湖探鳥会（要予約）

月 日 2月19～20日（土、日）

集 合 先発組

新宿中央高速バス乗場 19日9  
時10分（9時30分発山中湖行に  
乗車。）

後発組

同所発14時30分、又は16時  
30分（共に山中湖行）を利用して  
下さい。下車は山中局入口、宿舎ま  
で徒歩5～6分

宿 舎 民宿富士タカムラ（山中湖村山中  
416） TEL 05556-2-0690

費 用 バス往復 3,000円

宿 泊 4,500円

その他で計約10,000円位。

服装持物等、昼食は湖畔の食堂を利用した  
と思います。防寒は十分に。

担 当 坂巻、渡辺、高橋

申込先、宿泊のため予約制とします。

申込先 高橋敏夫

TEL 0471-82-2783

鳥と交通の便から、富士山麓になってしま  
いました。湖や林や水場に冬の鳥達を求めて  
歩きます。夜の部もたのしみです。

胸の黄は初見参の花鶏なる

中 ひろし

例年、忘年探鳥会か新年探鳥会を行っ  
てまいり、今回は新春行事として、古徳  
沼のハクチョウ、大洗付近で海鳥をみる  
予定でありましたが、12月はじめ大洗  
平磯の海を下見したところ、あまり期待  
できそうもなかったため、安全な山中湖  
を訪れることに変更いたしました。

ご了承願います。

行 事 報 告

○ 手賀沼探鳥会（11月14日）

佐藤 豊

今日は、くもり時々晴とまずまずの天気で  
した。まだ我孫子野鳥を守る会に入って間も  
ないばかりには、思い出にのこる探鳥会になり  
ました。

9時半ごろ市役所を出発して、手賀大橋を  
わたると、沼のそばの田んぼにコサギやダイ  
サギがいました。少し行くと田のあぜにコサ  
ギなどに混ってほくの知らないサギが1羽い  
ました。コサギくらいの大きさでダイサギの  
ようにくちばしが黄色いサギでした。知野君  
がプロミナーで見てアマサギだと教えてくれ  
ました。少したって細い用水路に目をうつす  
と10mほど先にコバルトブルーの美しい鳥が  
飛んでいるのが目に入りました。ほくは「カ  
ワセミ」だとさげびましたが、すぐに見えな  
くなりました。ほくはカワセミを間近で見る  
ことが出来たのでとてもうれしかったです。

目的地につくとハシビロガモやオオバン、  
オカヨシガモなどが群をなして泳いでいるの  
が見えました。しばらくすると下沼の方から  
ゴイサギが群でやってきました。ゴイサギの  
飛んでいるようすは、とても美しくかったで  
す。

ほくがゴイサギの群に見とれていると、だ  
れかが「カワセミだ」といったのでほくは、  
目をこらしたけどついにみる事ができませ  
んでした。しばらくするとまた「カワセミだ  
」という声がありました。今度は飛んでいるカ  
ワセミを見つけました。そして竹ぐいの上に  
とまりましたがすぐ飛んで行ってしまいました。

それから歩いて次の場所へむかいました、  
とちゅうにもオオバンの群れやホシハジロが  
いました。次の場所には、オナガガモやカル

ガモ・マガモがいました。カモに似た鳥が飛んでくるとだれかが「カワウだ」といいました、ぼくはカワウをはじめて見たので感げきしました。

次に車で下沼へむかいました、とちゅうでカウントに行っていた飯泉さんの車に会うと、下沼にカンムリカイツブリがいるとおしえてくれました。ぼくは下沼につくとすぐにカンムリカイツブリを探しました、ついでいました、白っぽい体をしたカイツブリです。ペテランの人たちは、ミミカイツブリだといっていました。少し観察して市役所に帰りました。

最後に、ぼくが期待していたタカの仲間を見れなかったのは、残念でしたが、カワセミを見ることが出来たのが、大きな収穫でした。

(注記) カンムリカイツブリ・ミミカイツブリは、同一場所で各1羽でした(高橋)

<認めた鳥> カイツブリ、ミミカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、スズガモ、コジュケイ、クイナ、バン、オオバン、ユリカモメ、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、計40種。

<参加者> 馬場節子・多香子、石飛博之、小池忠、吉田亨、中島永子、相原トミ子・左枝子、塚沢絵美子、佐藤豊、知野二郎、犬田忠義、岩瀬芳史、島崎純造、中尾照平・米子、三神鶴吉、鈴木五郎、小田康之、山崎寛生、伊藤礼子、小林信義・民子・健・晴美、大久保利一・晴江、篠島秋平、首藤佑吉・美恵子、林民江・はるか・まき、阿部茜、佐藤千鶴、岩瀬あやの・ちさと、日比野岳、中弘、赤尾完、河野芳樹、飯泉仁、篠山久美子、坂巻忠雄、高橋敏夫 以上 45名。

## ○ 古利根付近の自然観察会

(57.10.31) 林 民江

曇のち雨の天気予報の予想をうらぎり、好天候に恵まれる。

9時10分、黒いゴム長靴の浅間さんを先頭に、一行は湖北駅を出発。

天井が低く、店内の暗い金物屋などが軒を並べる駅前商店街をぬけて歩くこと約10分。「これが、オヒシバ、メヒシバ、イヌダテ。」

よく見かける草を手に、早くも三神さんの声が上がった。

農家の庭の生垣の間の一本道をくだって行く。

静かだ。ときおり、もずの声がする。

秋たけなわとあって、両側の生垣はさながら植物の展覧会のようなだ。

私がこの会に参加するのは10月17日の手賀沼探鳥会にひきつづき二度目である。

今回は娘2人以外に同じマンションに住む阿部、茜ちゃん統君、姉弟を連れての参加。

子供たちもメモ帳をひろげてなにやら書きはじめる。

日差しが背に暑いくらいだ。

「沼地は風が冷たいから。」

と、厚手のジャンパーを着こんできた子供たちは、さすがに汗ばんでいる。

小休憩を利用して、子供たちはジャンパーをぬがせて、それぞれのリュックにゆわえつける。

図鑑の大好きな統君。

「虫のことならなんでも知ってるよ。」

先生をさしおいてのこの発言に、おしゃまなお姉ちゃんがあわてて、ひじをつつつく一幕もあった。

その時、

「あっ、チョウだ！」

と誰れかの声。

「どれ？」

「あそこ。あそこ！」

「どれどれ」

と指差す枝に皆の視線が集まる。

と、蝶は紺色の羽を光らせて、飛び去る。

ウラギンシジミという蝶なのだそうだ。

今度は赤とんぼが目の前をスーとよぎった。

「赤とんぼは高い山へ行って赤くなって帰って来る。」

と、浅間さん。

(なぜだろう。)

(自然の摂理とどういう関係があるのだろうか。)

調べてみる価値はありそうだ。

植物の説明を聞きながら、下り坂の道を右へ折れて、ドングリが散らばっている道をもうひとつまがると、急に視野がひらけ古利根沼に出た。

沼を囲む山の木々がわずかに色づき始めている。

のんびりと釣糸をたれている大公望の姿も見える。

水を見て心が安らぐのは人間の本能なのだろうか。やや疲れを感じる。その目に、水面のおだやかさが心ちよい。

昔、人は生活地を捜しもとめた時、きっと清流のほとりをまっ先に条件のひとつに考えたに違いない。

三神さんが地図を広げて、洪水の時に、古利根沼ができたいきさつを話してくれた。

NEC人工河川について語る浅間さんの話に耳を傾ける。

細い川であった時は、問題はなかったのに、人工で川底をコンクリートにしてからは、水の流れが急になり、濾化されなまま沼にそそぎこまれるので、沼の汚染がさらに進行したという。その影響で大量のカラス貝が死滅したという。

自然の摂理に逆らったための教訓であろう。

自然のままを保つこと。それが自然保護の

原点であることをあらためて認識させられる。

しばらく水面を眺めたのち、湿った沼ぞいの道をセイダカアワダチ草と、あずまね笹をかきわけながら、進む。

コオロギの音がしきり。

カラス瓜の赤い色がひととき鮮やかだ。

「ほら、チャツ、チャツ、ウグイスだよ。」

先輩のひとりが教えてくれる。

「エッ？ホーホケキョ。じゃないの。」

と子供たち。

「ささ鳴きといって、秋にはこんな風に鳴くんですよ。」

私も始めて知った。

急な斜面をいっきに登りつめて、利根川の土手へ出て昼食をとった。

午後1時過ぎに解散した。

子供たちにこの日の感想を聞いてみると次のような返事がかえってきた。

「プロミナからのぞいた。オレンジ色の小鳥(ジョウビタキ)がすばらしかった。」

林まき8歳。

「今まで見たことのない植物を短い時間でたくさん見ることができたのにはおどろいた。」

林はるか10歳

「植物の名前がおもしろかったね。ムラサキシキブとか、秋のうなぎつかみとか。」

林まき。

「私はハキダメギクがおもしろかった。」

阿部茜10歳

「茜ちゃんと同じ名前の草があったね。茜色の染料がとれるんだって。」

林。

「虫ばかり見る虫ウォッチングはないのかなー。」

統君8歳は男の子らしい発言。

「そんなのないよ。」

の聲があがる。

「でもおもしろかったね。」

「うん。」

「おもしろかった。」

皆が賛成した。

以上。

○ 手賀沼カウント

〈観察した植物〉 セイタカアワダチソウ、オヒシバ、メヒシバ、カゼクサ、チカラシバ、イヌタデ、シロザ、オオアレチノギク、イヌビエ、イノコズチ、オナミモ、ギシギシ、エゾギシギシ、ヨモギ、カヤツリグサ、オニノゲシ、ノゲシ、ツユクサ、セイヨウタンポポ、ホソバヒメジオン、カタバミ、マユミ、ウシハコベ、エノコログサ、ミチヤナギ、ウメモドキ、ホトケノザ、ナズナ、タネツケバナ、ノブドウ、ヤマノイモ、スズメウリ、ヤツデ、アカネ、アオツツラフジ、イヌシデ、サワフタギ、エノキ、アメリカセンダングサ、コナラ、ニセアカシア、アズマネザサ、ナワシロイチゴ、ヤブカラシ、コウゾ、ヤマウコギ、ヌルデ、チヂミササ、サルトリイバラ、タラノキ、ヨウシュヤマゴボウ、ムラサキシギブ、ヒサカキ、シラカシ、ゴンズイ、シロダモ、ノハラアザミ、サワフタギ、ナキナタコウジユ、クワクサ、カラスウリ、クズ、ゼンマイ、ミズヒキ、イヌホウズキ、ダンドロギク、チャ、サクラダテ、スダジイ、カナムグラ、ニワトコ、アシボソ、ミゾソバ、ハンノキ、ネムノキ、スズキ、オギ、タイアザミ、ハコネウツギ、タケニグサ、アキノタムラソウ、アキノウナギツカミ、オオイヌタテ、ヤナギタテ、コウガイゼキショウ、アキノノゲシ、ゲンノシヨウコ、以上 88 種

その他、虫 6 種と野鳥 21 種を観察しました。

〈参加者〉 柴田満子、吉池良一・みち、日比野 岳、島崎純造、三神鶴吉、佐藤 豊、知野二郎、庄崎富佐子、志賀鉄雄、小林信義、丸山真史・外 2 名、林 民江・はるか・まき、阿部 茜・おさむ、中島永子、相原とみ子、中 弘・迪子、高橋敏夫、浅間 茂

以上 25 名。

調査日時 57. 10. 17 (ウス曇) 9:30~12:00			
〈参加者〉 首藤佑吉・美恵子、中 弘、中尾照平・米子、知野二郎、日比野 岳、赤尾 完、三神鶴吉、大久保利一・清江、篠島秋平、庄崎富佐子、篠山久美子、飯泉 仁、林 民江・はるか・まき、小池 忠、江沢克子、岡田雅人、畑幸正、鈴木五郎、佐藤豊、高橋敏夫、渡辺義雄、以上 26 名 (探鳥班を含む)			
鳥 種	上 沼	下 沼	計
カイツブリ	17	4	21
ダイサギ	18	13	31
コサギ	19	16	35
アオサギ	31	—	31
マガモ	—	24	24
カルガモ	127	229	356
コガモ	19	138	157
オカヨシガモ	1	—	1
ヒドリガモ	1	3	4
オナガガモ	12	1	13
ハシビロガモ	10	7	17
ホシハジロ	—	1	1
キングロハジロ	—	6	6
ミサゴ	1	—	1
バン	2	—	2
オオバン	71	2	73
シロチドリ	3	—	3
ユリカモメ	198	103	301
計 18種	530	547	1,077

〈他に認めた鳥〉 キジバト、ヒバリ、ハ

クセキレイ、タヒバリ、モズ、セッカ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カケス、オナガ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ドバト、計 17 種、合計 35 種。

調査日時 57. 11. 14 (晴) 9:30~12:00
<p>&lt;参加者&gt; (カウント班) 篠山久美子、飯泉 仁、河野芳樹。 以上 3 名。 (探鳥班) 小田康之、山崎寛生、阿部茜、林民江・はるか・まき、伊藤禮子、佐藤千鶴、岩瀬芳史・ちさと・あやの、石飛博之、小林信義・民子・健、晴美、大久保利一・晴江、篠島秋平、首藤祐吉・美恵子、日比野岳、中 弘、赤尾完、小池忠、馬場節子・多香子、吉田亨、中島永子、相原トミ子・左枝子、塚沢絵美子、佐藤豊、知野二郎、犬田忠義、島崎純造、中尾照平・米子、三神鶴吉、鈴木五郎、高橋敏夫、坂巻忠雄 以上 42 名 合計 45 名</p>

鳥 種	上 沼	下 沼	計
カイツブリ	31	7	38
ミミカイツブリ	—	1	1
カンムリカイツブリ	—	1	1
カワウ	1	1	2
ゴイサギ	13	20	33
アマサギ	1	—	1
ダイサギ	5	11	16
コサギ	15	22	37
アオサギ	10	1	11
マガモ	—	216	216
カルガモ	271	491	762
コガモ	157	75	232
オカヨシガモ	94	—	94
オナガガモ	12	16	28

ハシビロガモ	123	64	187
ホシハジロ	7	4	11
キンクロハジロ	1	—	1
スズガモ	1	—	1
ミコアイサ	—	4	4
クイナ	—	1	1
バン	2	—	2
オオバン	185	9	194
シロチドリ	15	—	15
トウネン	12	—	12
ハマシギ	21	—	21
アオアシシギ	2	—	2
タカブシギ	33	—	33
タシギ	1	—	1
ユリカモメ	3	45	48
カワセミ	2	—	2
計 30 種	1,018	989	2,007

<他に認めた鳥> コジュケイ、キジ、キジバト、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、計 18 種、合計 48 種。

○ 明治神宮探鳥会

11月23日 曇

<認めた鳥> カイツブリ、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、キジバト、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カケス、オナガ、ハシボソガラス、ドバト 計 23 種

<参加者> 知野二郎、佐藤 豊、日比野岳、庄崎富佐子、中尾照平・米子、古屋 至、三神鶴吉、高橋敏夫、飯泉 仁、  
以上 10 名。

# ○ 臨時総会

11月14日

私たちの我孫子野鳥を守る会が発足してから今年は満10年になりました。これを祝って会長が赤飯を沢山作ったのをご馳走になり、来年の行事予定を作製し、スライドを觀賞して、たのしい時間を過しました。

## 鳥だより

ヨシゴイ	8	82. 10. 25	下沼	高橋敏夫
シメ		" 11. 4	白山	坂巻忠雄
シメ		" " 7	高野山	高橋敏夫
ミミカイツブリ		" 14	下沼	
カンムリカイツブリ		" "	下沼	
以上 探鳥会で				
カンムリカイツブリは 11. 21 まで下沼 でみられました (高橋)				
ノスリ		82. 11. 21	下沼	高橋
ハジロコチドリ	3羽	82. 12. 4	} 上沼	志賀鉄雄 志賀鉄也
コアオアシシギ	2羽	" " "		

## 御 寄 付

一金	10,000円	10周年を祝って	荒井 茂様
一金	2,000円	10周年を祝って	柴田満子様
一金	500円		寺田義雄様
屑米	20kg		篠山秋平様
同	20kg		渡辺義雄様
同	10kg		中山元司様
茶ガラ			中尾照平様
同			吉池みち様
同			柴田満子様
同			岡田群司様
同			大久保利一様

別に屑米300kgを実費で篠島さんに購入していただきました。  
ご芳志厚く御礼申し上げます。

後記、バード・ウォッチングに参加する人が増えてきました、うれしいことです、特に少年少女の参加が多くなったことは素晴らしいことです。きっと夕餉の席は、自然からの通信を母子で語り合う場ともなるでしょう。(TT生)

### 我孫子野鳥を守る会会報 第50号

発行人 渡辺 義雄 TEL (0471) 82-0521  
住 所 我孫子市高野山556  
振 替 東京 4-51628 我孫子野鳥を守る会  
会 費 年額 1,500円(中学生以下 500円)